

# 新 進 路 指 導〔I〕

岡 田 三 郎\*

Saburō OKADA

New Educational and Vocational Guidance〔I〕

## I 方 針

新しい進路指導の理論を教育界に具現するために、その論拠と各種分野に進路指導の趣旨を生かす方法についての方針を述べる。

## II 用 語

現在日本においては、職業指導の語と進路指導の語が併用されている。出発は1901年米国で始めた **Vocational Guidance** の方法を大正4年（1915年）輸入して、これに職業指導の訳語をつけて使用し始めた時であるが、この語は今もなお、教育職員免許法中に用いられ、また職業安定法中でも使われている。しかし、中学校高等学校において教科外に進路指導が行なわれているが、そこでは昭和33年以降進路指導と名称が変更されて来た。

中学校高等学校共進学就職あるいは家庭に入ること等すべてを包括する意味で、進路指導の語を適切であるとして変更したのであるが、その時内容については同じであるとの諒解があった筈なのである。しかるにその頃米国より **Super** 氏等の方法が輸入されて、進路指導の意味内容が生涯指導（あるいは人生コース）の理論にまで引き伸ばされ、拡充されたことにより、内容が異なるかの如き印象を人々に与えるのである。ここでは適切と思われる方の用語を用いる。

## III 人間の生活と進路指導

欧米各国共就職相談から職業指導は始められてきた。それは現在の日本で言えば労働省の雇用行政に属する作業と言うべきである。この事から職業指導の内容は学校教育の中心課題である児童生徒の人間形成と言う問題から全然離れていた訳ではないが、就職斡旋の技術に関する方法に重点を指向して来たように思われる。そこで多少、進路指導の理論構成の必要上ある項目を指摘しておきたいと思う。

動物は危険が近づくと、仲間に声で知らせたり、食糧の所在方向を羽で知らせる等が知られており、人間社会においては平安朝時代にその子女を教育指導し、就職結婚等を有利に導びきその結果、三船の才などの能力の呼称が生まれたし、中世武家の時代には一族郎党の武術教育により一族の強大を計ろうとしたりした。三船の才に対し、馬上の三物の語が使われたりした。これらはすべて自己とその所属集団の生存や未来の発展を願う本能的欲求から出発する行動に外ならない。かくて、学校における進路指導は、家族や民族の長い将来にわたる発展繁栄を願う本能的人間の欲求の一つであると言える訳である。

進路指導の根ざす欲求と人生コース指導の機能を意識するに及んで、日本語に対し改めて当てはめた英語は **Educational and Vocational Guidance**、略して **EVG** であった。

## IV 欧米の実践と日本の発展

### 1 米 国

職業指導の発足の事情が割合明確に伝えられて、日本で参考しているのは、米国のボストン市のそれで1901年市民相談所の一部で就職のための相談が始められた。その際の活動分野として、個性の把握、情報提供、及び職業相談の三本の柱を意識して行なったと言う。更に1908年にニューヨーク市において **Vocational Guidance** を学校教育において採用し、実践することになったが、それはなお雇用行政の一部を学校が兼ね行っている感があった。しかし教育者が職業指導を考え始めると、やがて、それは単なる雇用行政上の就職斡旋に止まらず、人間教育の中心課題であることに気付くようになった。就職する生徒個人にとっては、就職が如何に重要でもそれだけの職業指導では、雇用行政の一部であり、教育の中心課題から程遠い斡旋技術の理論程度に見られたのもやむを得ないことであった。この作業を学校で取り上げ

\* 島根大学教育学部技術科進路指導研究室

た当初は、たしかにそうした傾向のあることを否定する訳には行かなかった。しかし単なる雇用配置から、自我概念の形成とその現実への転化と言う実に重要な責任が進路指導には負荷されていることを自覚するに至った訳である。こうした理論から、ある時期だけの指導ではなくして一生涯の指導として扱われるようになって来たのである。従って学校教育においては幼稚園から高校に至るまで一貫してしかも学校教育の全分野でその趣旨が生かされなければならないとされるに至ったのである。この際旧来の理論と技術は否定されるのではなくて、拡充された理論と技術の一部分に包含されながら発展して来たのである。

研究者は Vocational Guidance が単なる Placement ではなくて、教育上の中核的課題につながる点を早くから意識し、例えば Donald E. Super 氏の如く、職業指導の再定義において、「自我概念の形成と現実転化」と言う語を用い、教育全体の目標である人間形成と社会生活において実践能力を発揮するのと異語同意の解釈や主張をした者を見ることも出来るのである。Super 氏は“Psychology of Careers”を刊行して、職業的人生コース分析方法を秩序づけるに至るのであるが、最近はその理論の活動家達によって、連邦教育局から Career Education Plan を発表し、多くの洲でその実践を始めている。全国基準の要点は下記のとおりである。

目標 意識理解＝幼稚園から第6学年まで  
方向づけ＝第4学年から第10学年まで  
探索＝第6学年から第11学年まで  
仕事経験＝第10学年から第14学年まで  
準備＝第10学年から第14学年まで  
就職＝第11学年から第14学年まで

指導大綱目 判断力・態度、自己理解、意志決定、教育的意義、進路意識、経済的自覚、機能についての自覚と課題達成能力の取得・活用  
雇用価値のある技能の獲得。

職業群 販売、流通・建設・輸送・マスコミ・環境制御・福祉、レクリエーション・公務・家庭経営・事務・製造・農、林、水産・海洋・健康・芸能・個人サービス。以上15職業群

## 2 フランス

米国の Career Education 輸入より少しく前、フランスで1959年に制度化された観察指導期間（日本では期間の部を課程と訳した）の方法を熱心に導入した人々もいた。フランスは1789年政治革命を実践した国で、労働者の教育への関心も強く、早くから職業指導所を作っていたが、前記のとおり、日本の中学校に相当する段階で、全学的進路指導を実践している。

## 3 ソ 連

1917年の革命により、社会主義への道を歩み始めたが、日本では余り引合いに出される機会が少ないようである。全国民が労働者となったソ連では、その教育理論は、各人が自分の適職を得て、そこで個人の能力を最高に発揮すべき義務と権利とを行使しなければならない筈である。変化はあったが、職業指導と技術及び労働教育は一貫して準備され発展させられて来ている。

## 4 日 本

日本の職業指導はその主要なる時点で米国の先例が参考になっていたと思う。しかし、自然及社会条件の特殊性を考慮して、日本独自の内容を構成すべく努力して来ている。文部省が公式に職業指導実践に踏み切ったのは、昭和2年であったが、昭和6年には東京市の小学校職業指導研究会は全学校教育活動において実践する案を考案公刊した。これを筆者は「昭6職業指導案」と呼ぶことにしているが、米国で現在開始したばかりの Career Education Plan が1973年に示されるより42年前の1931年のことであった。大体この昭6職業指導案が国の政策に採用されたと見られる昭和17年の国民学校令中の職業指導は戦争のため実施は出来なかった。この時同時に訓令された小学校高等科の「職業指導科」が戦後の職業・家庭科に生かされたと見てよろしいかと思う。したがって、職業・家庭科中には職業指導の趣旨が生かされたが、小学校及び中学校の一般教科担当者は職業指導に関して無関心な者が多かった。

昭和33年より実施の中学校の技術・家庭科には名目上職業指導は職業・家庭科と共に削除された。（心身障害者教育の職業・家庭科は現在も存続はしている。）技術・家庭科実施後は名称を進路指導と改めたが、学習指導要領では特別活動の学級指導で行なうことになった。そのために教員養成学部では教職関係の単位でこの必要を充足する大学が多くなっている。しかし33年頃すでに進路指導の生涯教育の基礎理論が、米国においては勿論、日本においても概成されていたのである。後に進路指導の趣旨実現のあるべき私案を敘述するが、幼稚園から高等学校まで、大学もそれに準じて、全面的に実施するものとすれば、教員養成学部においては一、二の教官の教職の少数の進路指導の単位だけではもち論不徹底であり、世界的教育の進歩には到底追従することなど不可能であろうと思う。

職業指導の免許状は現在全く有名無実と言っても過言にはならないであろう。この免許状保持者が、進路指導主事要員に充当されるのが適当であると見られているのである。この主事は昭和28年11月職業指導主事を中学校高校におくべき学校教育法施行規則中の条文追加があ

り、46年12月に名称を進路指導主事と改めて現在に至っているものであるが、定員化していないと言う大きな欠陥があり、教員養成学部においても全国的に殆ど無視されている現状である。

## V 教育上の可能性

### 1 現今社会の一側面

進路指導を各級学校を通じて、しかも夫々全学的に実施するとすれば、個性開発の前提条件となる社会について、少しくではあるが改めて確認しておきたいことがある。殊に産業職業の問題としては技術が重要な役割を果しているの、現在及将来の技術発展の動向を考慮することは極めて重要である。第2次大戦を境として科学技術の先進国は、原子力の平和利用、電子計算機の活用、及人工衛星の開発等目覚ましい進歩をなしつつある。これらは20世紀の三大発明などとも呼ばれることがあるがその万般にわたる科学技術の進歩は著しいものがある。しかしなお今後の技術の進歩並に普及から見ると、現在は幼稚な段階にあるとも言える。これから世界的に睥睨すべき進歩のあることは容易に首肯出来ることである。進路指導が人生コースの指導であるならば、社会のあらゆる方面に発展する技術社会への適応及技術の駆使と生活様式の変更等に対応する方法の指導もゆるがせには出来ないことである。安易に海外からの技術輸入で産業の発展を計ろうとする態度では極めて不充分である。しかも社会は調和ある発展を遂げなければならない。技術社会への理解力・開発能力を必要とする理由である。教育界では各種の点で配慮したい条件である。

考慮すべき社会情勢について付記しておくべき一事は国民として当然であるが、国際社会において民族が好意を以て迎えられ発展すべき必然の条件を勝手に確認しなければならないことである。同じくカリキュラムを研究し、技術教育を研究する場合に民族意識の維持発展を計りつつ、創造能力を開発する目標も達成するような教材を選ぶことは意義ある着想である。このために技術史への関心を昂揚しなければならない。しかしそれは単に古いものを列べたり、只に懐古趣味を満足する状態に陥らざるよう注意しなければならない。

### 2 個性開発の方策

世界的に教育年限が延長される傾向にあるのは各国共相当の必要を認めているからであるが、質においては個人の能力開発と個性に合致した進路選択を可能にするように各国共工夫をしている。重ねて言えば、①夫々の進路に対する興味や価値の発見のために、全学的に進路指導の徹底を計りつつあり、②また、個性の考慮と合わせて個性に合致する教育訓練の向上を計りつつある現状であ

る。

従来これらは就職問題と合せて、進学問題をも含む学校で、これら当面の問題対策に重点をおいて扱って来たように見える。これからは進路指導の理論から見ても、海外の事例からしても幼稚園時代から各人に相応しい一貫した教育訓練種目を選んで始めるようにしてもよろしいと思う。選択とその開始の時期にも問題があるのであるが、この方針を実践するものとすれば、スポーツ、学術、芸能等について幼少時から各人毎特殊分野について、一貫する教育訓練が行なわれるわけで、高校や大学卒業時には、社会に対しあらゆる方面に素晴らしい人間を多数年々送り出すことが出来るようになると思われる。

## VI 進路指導の趣旨具現化の方針

### ことわりがき

進路指導の趣旨実現のためには、制度的改革にも及ぶ部分があるし、他面、現制度の枠組中の改善方策を論ずる部分もある。以下の所論はその両者を含むが、更に具体化した実践案については本論ではさけて、別の機会にゆずりたいと思う。軽々しく論ずるべきではないと判断されるのと、幼稚園から高校、更に大学にも関係するこの問題は、なお多くの関係者の意見や、調査及び実験的試行を必要とする部分もあるからである。

#### 1 全学的に生かす進路指導

##### a 制度的改革を要する部分

① 自由研究時間の新設 クラブ活動にも類似するが、大体毎日、各人が選んだ特定テーマについて学習を深めさせる。特に希望のない者には教科の補足等を学習させる。

② 教科としての進路指導科の新設 教科的に最も狭義の進路指導について学習させる。自由研究時間の学習と、中学校の学習指導要領の例ではその中にある学級指導中の進路指導と関連して運営する。進路指導教科は自由研究の内容をも単なるレクリエーション的内容に墮すことのないよう指導をする必要がある。例えば、将来の産業及び職業人口の構成比率を参考としてテーマの種類と数ある程度規制するが如きものである。男女別の学習内容については必要によっては、家庭消費技術を調査し、それに応ずる産業・職業に関して実技の学習をさせる。この考え方によれば女性の適職として医者なども考えられるわけで、男子に劣らず高度な科学技術や社会学の学習も可能であろう。

##### b 伝統文化への配慮

① 技術的問題 前に技術史の必要を指摘したが、養蚕及び繊維加工、食品加工を例示してみたい。小学校教育の目標中に「日常生活に必要な衣・食・住・産業等について、基礎的な理解と技能を養うこと」と言う条文

がある。蚕は生糸生産と言う点で知られた昆虫であるが、加工すれば、繭糸腺と蚕体構成物を蛋白食糧として利用出来るらしく思える。織布技術より機械式計算機や電子計算機が発達したこともあり、過去の技術を教材とし、伝統文化の理解を進めながら、将来の飛躍的技術発展の基礎的理解をさせることは極めて有意義なことと言わねばならない。養蚕業に関連する社会的分業は広範囲にわたり、技術史の意味も重大である。従ってある特定教科だけで、これを処理しようとはしなくてもよろしいし、また不可能でもあるであろう。技術史に関する事項は多いが、伝統文化と関連性あるものを取り上げる場合、この種意味づけが出来ることは望ましいことである。

② 外国語教育上の問題 日本民族の国際的活動は各種の分野にわたって多面的である。今後も国際的交流は当然のことながら発展するであろう。従って、益々外国語、就中英語使用は普及するものと思われる。歌唱の分野にも関係はあるが、国語における書道の如く、英語にも毛筆による芸術分野があってもよろしいと思う。私はこれに「横文字書道」と名づけた。日本人の英語使用の普及に伴い、民族の伝統文化の一部に横文字書道を加えたい希望をもつ。このため、学校教育活動のどこかにこれを加える必要があると思う。

## 2 教科に生かす進路指導\*

### a 進路理解 (各教科教材関連事項)

① 現社会において、上級学校、産業職業等についての物的精神的所要条件や社会経済的必要条件等を教科教材の好機に理解させる。

② 人生コースにおける各種事件と、適応の仕方を指導し、事例として個人や集団について、その所属集団に対して果たした責任や貢献、受けとった有形無形の報酬等を理解させる。

③ 産業技術については、現状の外、将来の発展の方向や、改善の可能性等を示しておくことは、進路として選択する問題の外、そこへ **Entranee** 後に適応進歩するためにも望ましいことである。一般的に狭義の生産技術における改善進歩の方法を理解体得させておくことが出来れば極めて有意義なわけであるが、教材に関連づけて、労働科学、就中創造工学の理解体得を得させるようにしたいものである。

### b 個性把握

進路指導の趣旨を教科中に生かす他の分野は、教科運営中において、個性把握をし児童生徒に自己理解を促すことである。次のような場合が考えられる。①学習能力。教育結果を含む能力、あるいは教科別の特長知能や特殊感覚等を検査する。②学習の態度特性。③職業適性

の把握。教材学習結果と適性検査結果との相関を求めることにより、適性の判定を行う。④学習成績。現在行なわれている方法に必要なものを加えたが、教科によっては④を省いてもよい。

## 3 教科外活動に生かす進路指導

### a 道徳

私の考えであるが、全国民としての職業観では、企業における労使協調と小企業例えば農業者の協同組合活動等を見て、協同社会的職業観が適当と思う。また、血縁社会と社縁社会を区分する考え方を理解させることが必要で、社会の進歩はむしろここから出発すると言いたい。

### b 特別活動における進路指導

系統性ある各級学校のクラブ活動の指導は、それが生徒児童等の希望的娯乐的なものであるとは言え、自由研究の時間と合せ進路指導上にも意味をもつ。また民族文化の意味で、邦楽や日本舞踊を少人数でも取り入れることは望ましいことである。

家庭の保護者との協力によって生涯の記録簿(マイライフ)を記録させる。

中学校の例で言うが、学級指導で行なう進路指導はもち論実践しなければならない。

## 関 連 資 料 等

- 1 増田幸一 世界の進路指導 日本職業指導協会 昭43。
- 2 仙崎武 キャリアエデュケーション・その後(一) 進路指導 S50.4。
- 3 日本職業指導発達史 日本職業指導協会 S50。
- 4 岡田三郎 EVGにおける情報提供の趣旨 日本産業技術教育学会 S50 第17号。
- 5 岡田三郎 EVGにおける個性把握について 教大協二部会研究会発表要旨 S49。
- 6 岡田三郎 教科における進路指導 進路指導 S50.2。
- 7 岡田三郎 進路相談の理論 九州大学研修会第7回 昭43。
- 8 岡田三郎 進路指導論 今井書店 S40。
- 9 岡田三郎 マイライフ 進路指導 S45.2。

\*島大、付中、中山義弘氏の協力により技術科の例研究中。